

2025年度日系社会研修（多文化共生推進／日系協力型） 日系サポーター コース概要

NO	9
所管センター	中部
分野	高齢化対策
研修コース名（日）	高齢者介護サービス
受入人数	1
受入時期	上半期
来日日	2025年5月11日（日）
帰国日	2025年8月30日（土）
提案団体（日）	COOPERA協同組合
提案団体 ウェブサイトアドレス	なし
研修員必要資格	医療、福祉、介護、いずれかの分野に従事している、または過去に従事経験があること。
研修員に必要な実務経験年数	実務経験1年以上
日本語能力（選択） ※日本語能力試験認定の目安参照	N4
ポルトガル語 スペイン語能力	スペイン語（母語）
研修目標	日本の介護制度と多文化共生の現状を理解し、介護支援が必要とされる現場で適切なサービスが提供できるための技術を習得する。
期待される成果 （習得する技術）	1. 日本の介護の現状と介護制度を理解し、母国との違いを学ぶ。 2. 基本的な介護の知識と技術を習得する。 3. 実際の介護の現場を訪問して実践的技術や手法を学び、また地域コミュニティ、行政、介護従事者との連携について理解する。

研修計画（内容）	【講義】日本の介護の現状・介護制度、介護職の理解、介護における尊厳の保持・自立支援、介護の基本、介護・福祉サービスの理解と医療との連携、介護におけるコミュニケーション技術、老化の理解、など 【見学】市内の介護施設、日系コミュニティの自宅訪問、など 【実習】市内・市外の介護施設、など
研修実施の背景／日本国内の中南米出身者のコミュニティにおける現状、多文化共生等課題解決を推進するにあたっての問題・現状等	日本は2007年に超高齢社会に突入し高齢人口が急速に増加する中、要介護者のケアを今後いかに担っていくかが社会問題となっている。日本に在住する外国人も含めた高齢者に対して介護サービスが適切に行き届くよう、社会全体で考えていかなければならない。 現在、静岡県在住の外国人高齢者人口は増加傾向で、今後も高齢化の傾向が続くことが見込まれる。このような状況下、外国人高齢者は、言葉や習慣・文化の違いにより介護に関する必要な情報が得られない、複雑な介護サービスの制度や利用方法が十分に理解できない、外国人向けの介護サービスの案内が十分に用意されていない等により、介護サービスの支援を十分に利用できていない。他方、外国人高齢者は日本の介護サービスへの理解不足により、介護施設やサービスへの不安感が大きく、また言葉や意思疎通の不便さから介護施設やサービスの利用をネガティブに感じている傾向にある。このことは、地域コミュニティ・行政・介護従事者の連携不足が起因していることが考えられ、この連携を強化することで様々な改善が見込まれる。また、要介護者の母語を理解できる介護者が介入することで、言葉の問題だけでなく要介護者の価値観、倫理観や文化的な理解をした介護サービスの提供が可能となり、要介護者の安心感が得られる。
本研修実施の意義 応募者への裨益効果	本研修は、研修員が日本の介護制度を理解し、基本的な介護技術を習得する。特に、要介護者の気持ちを深く理解し共感をもって接することが重要であることを学びの焦点とする。その習得したノウハウを活かして、日系コミュニティの高齢者やその家族等に対し介護情報・支援の提供を行う予定である。 本研修実施団体の担当者は、介護福祉士の資格を持ち、静岡県を中心に外国人介護職員の育成や日系コミュニティに向けた介護サービスの情報発信やイベント等の開催を行っている。研修員に対し日本語または西語での指導が可能であり、また介護のみならず多文化共生の現状や課題について共に考えることができる。これらの知見や経験を得た研修員は、母国の介護サービスに活かすことができ、また母国の日系社会においても重要な役割を果たせることが期待される。
応募希望者への特記事項	特になし